ooyaishi
NPO法人 大谷石研究会
大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌

大谷石積塀が重要文化財指定に

NPO法人 大谷石研究会
理事　海老原忠夫

地下鉄日比谷線本願寺前で下車すると、外壁大谷石貼りの綺麗な駅舎が現れた。駅舎から大谷石の石塀が延々と続く、石塀に沿って歩いて行くと正門に出た。正面に築地本願寺本堂が目に飛び込んできた。

築地本願寺は、浄土真宗本願寺派（京都西本願寺）の直轄寺院である。江戸時代初期の元和3年（1617）浅草近くの横山町に創建されました。江戸浅草御坊と称された寺は、明歴3年（1657）の大火で焼失した後、現在地に移転再建されました。本堂前の重要文化財指定の説明文を抜粋してみます。

「江戸時代から明治期にかけて何度か再建された本堂は大正12年（1923）の関東大震災で焼失した後、昭和9年（1934）に現在の本堂となりました。

西本願寺宗主、大谷光瑞の依頼を受けた、設計者の建築家、伊東忠太は、日本の伝統的な寺院様式ではなく、仏教の発祥地であるインド建築様式を独自の解釈で外観に取り入れ特異な雰囲気をもつ伽藍を創出しました。

花崗岩が用いられた建物中央の本堂は、上部に銅板で葺いた巨大な円型屋根がのせられ、左右対称にのびた翼部には鐘楼と鼓楼の塔屋を置き、正面中央と左右の人口には独特の曲線による破風を設けています。内部は伝統的な浄土真宗寺院の本堂形式でありながら、外観各部にはインド風の建築手法が見られ、入口の破風、柱頭飾り、屋根上の尖塔、さらに細部の装飾が一体となり、全体として調和のある外観を創り出しています。当寺院本堂は、建築家、伊東忠太が最新の技術を用いて東洋的な建築を追求した典型例であるとともに、秀逸な建築デザインを保持する震災復興期の貴重な建造物といえます。また、本堂とはほぼ同時期に建築された外周の石積塀や石造柱門（正面、北門、南門）も共通のデザインを踏襲しており、本堂と一体をなす貴重な建造物となっています。

これらの建造物は、平成26年に重要文化財として指定されました。中央区教育委員会」

外周の5基の大谷石積塀は、本堂入口階段の大理石の手摺のデザインを踏襲しております。ビルの谷間に建つ本堂を囲む大谷石積塀は、都会にあって、異空間を創り出して、人々の生活と一線をを別けながら、安らぎを与え、独特な景観を醸しだして地域のランドマークになっています。

■所在地／
東京都中央区築地3-15-1
■見学／自由
■交通／
地下鉄日比谷線築地本願寺前下車

築地本願寺正門

築地本願寺境内北側大谷石積塀

地下鉄日比谷線築地本願寺前駅舎大谷石積塀

築地本願寺本堂入口階段手摺（大理石）

築地本願寺前駅舎　外壁大谷石貼